

インベントリにおける算定方法の改善について（概要版）

（運輸分野）

1．2006年提出インベントリにおける算定方法の改善案

運輸分野における各排出源からの排出に関する報告に対し、2003年訪問審査、2004年机上審査において、未推計排出源からの排出量の算定等が推奨されたことから、算定方法の検討を行い、改善案を取りまとめた。以下にその概要を示す。

（1）新たに算定方法を設定した排出源

・ 天然ガス自動車

天然ガス自動車は普及台数が年々増加してきていることから、天然ガス自動車のCH₄及びN₂O排出係数を実測し、その結果を基に排出係数を設定し、排出量を算定する。

・ 二輪車

CH₄排出量はPRTRの方法（PRTR法に基づく移動体発生源からの排出量計算方法）で算定した。N₂Oについては、排出係数として1996年改訂IPCCガイドラインのデフォルト値を用いて算定する（活動量はPRTRの方法）。

・ 蒸気機関車

1996年改訂IPCCガイドラインの排出係数のデフォルト値を用いて、SLからのCH₄及びN₂O排出量を算定する。

（2）算定方法を変更した排出源

・ ガソリン小型貨物車、ディーゼル小型・普通貨物車

CH₄及びN₂O排出係数データが入手できたため、それをもとに、ガソリン小型貨物車のCH₄排出係数、ディーゼル小型・普通貨物車のN₂O排出係数をデフォルト値から実測データに基づく係数に見直す。


2. 改訂後のインベントリ概要

既に確定報告済みの 2003 年度インベントリに対して、今回とりまとめた算定方法等の改善案を適用すると、改訂後のインベントリは、表 1 のようになる。矢印は改訂前 改訂後の変化を表している。なお、最初に述べたとおり、改訂後の 2003 年度の排出量はあくまで現時点での試算であることに留意が必要。

表 1 運輸分野の報告案 (2003 年度試算値)

排出区分	計上すべきGHGs(単位:千t-CO ₂)		
	CH ₄	N ₂ O	合計
1A3.移動発生源	237	6030	6267
a.航空機	5.1	110.3	115.4
ジェット燃料	4.4	110.2	114.6
航空ガソリン	0.68	0.15	0.83
b.自動車	204	5721	5925
ガソリン	153	4778	4930
自動車	137	4768	4894
二輪車	NE 27	NE 10	37
軽油	44	1345 808	852
LPG	3	133	137
天然ガス	NE 4	NE 2	5
バイオマス燃料	NO	NO	NO
c.鉄道	0.9	82.0	82.8
軽油	0.8	81.7	82.5
石炭	NE 0.12	NE 0.24	0.35
d.船舶	27.9	116.7	144.6
軽油	0.9	4.1	5.0
A重油	8.8	37.0	45.8
B重油	0.4	1.9	2.3
C重油	17.7	73.7	91.4

凡例

 : 報告方法を変更する排出源

表中の数字は、あくまで現時点の試算値であり、数字が変わり得る。

新たな排出源の追加等の改善を実施することにより、改訂前後の排出量の変化は表 2 のように試算される。2003 年度の運輸分野からの温室効果ガス総排出量は約 630 万 t-CO₂ となり、基準年比 30.4% 増となる。

表2 改訂前後の排出量の変化（試算値）

（単位：千t-CO₂）

	排出源	1990年度		2003年度	
		改訂前	改訂後	改訂前	改訂後
CH ₄	航空機	2.9	2.9	5.1	5.1
	自動車	164.8	219.4	184.3	203.5
	鉄道	1.1	1.2	0.8	0.9
	船舶	26.3	26.3	27.9	27.9
	合計	195.2	249.9	218.0	237.4
N ₂ O	航空機	69.7	69.7	110.3	110.3
	自動車	4721.4	4255.0	6245.9	5721.0
	鉄道	121.5	121.7	81.7	82.0
	船舶	111.3	111.3	116.7	116.7
	合計	5023.9	4557.6	6554.7	6030.0
合計		5219.1	4807.5	6772.7	6267.4

2003年度（基準年比）	
改訂前	改訂後
29.8%	30.4%

表中の数字は、あくまで現時点の試算値であり、数字が変わり得る。